

アクションプラン1 中間報告

— 学 習 指 導 —  
アクションプラン1

重点課題	表現力の育成		
現 状	◇ 昨年度は、家庭学習や書く活動に力を入れて取り組んできた。その結果、家庭で楽しく自由勉強に取り組んだり、工夫してノートに書いたりする姿が見られた。 ◇ 自分の考えをなかなかもてなかつたり、人前で発表するのが苦手だったりする子どももみられた。そこで、今年度は、自分の考えをもち、筋道を立てて発表することができるように表現力の育成に重点を置いていきたいと考えている。		
目 標	友達や地域の人など他者に自分の考えを筋道立てて話すことができると自己評価する子どもが 80 %以上いる。		
方 策		評 価	
		中 間	年度末
1	自分の考えをもち、深めるために、各教科等の学習においてノート指導に力を入れ、自分の考えを書き、話し合う場を設ける。	C	
2	伝統文化や言葉のリズムに親しむために、毎月一作品程度、詩文等を暗唱する。	C	
3	自分の考えや感想を発表する経験を重ね、自信をもたせるために、授業や集会などで伝え合う場を設け、カード等を用いて評価する。	B	
公開の方法	学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ		

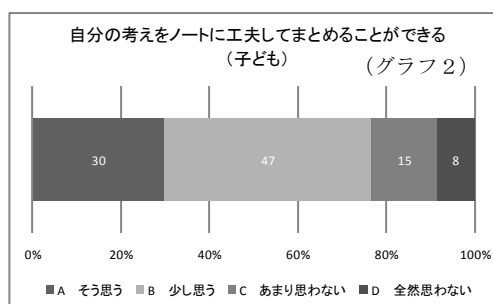
評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取組状況																
<p>1 子どもの実態と考察</p> <p>「友達や地域の人に自分の考えを話すことができる」に対する子どもの自己評価では、4段階（A,B,C,D）のA,Bの子どもの割合が62%と目標の80%には達成しなかった。教員の評価でもA,Bと評価する割合が63%となっている。（グラフ1）その原因としては、具体的な目標とする子どもの姿、及び評価基準が教師も子どもも明確でなかったことが考えられる。</p> <p>一方で、保護者アンケートでは、「お子さんは、家族だけでなく友達や地域の人に対しても自分の考えを話すことができる」のA,B評価が85%、「お子さんは、はっきりとした声で話している」のA,B評価が87%、「お子さんは、自分の考えを理由をつけて話してる」のA,B評価が89%であった。概ね、子どもたちの表現力について高い評価をしている。</p>	<p>友達や地域の人に自分の考えを話すことができる (グラフ1)</p> <table border="1"> <caption>グラフ1: 友達や地域の人に自分の考えを話すことができる</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>子ども (%)</th> <th>教員 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>19</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>43</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>32</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	評価	子ども (%)	教員 (%)	A	19	37	B	43	63	C	32	0	D	6	0
評価	子ども (%)	教員 (%)														
A	19	37														
B	43	63														
C	32	0														
D	6	0														

## 2 方策について

### (1) 方策1(ノート指導と話し合い)について

子どもアンケートによると「自分の考えをノートに工夫してまとめることができる」の項目で A,B 評価をした子どもは、77%となっており、子ども自身も努力していることが伺える。(グラフ2) 一方で、D 評価の子どももおり、個別指導が必要となっている。



教員アンケートでは、A,B 評価が 71%となっている。ノートに書かせるだけでなく、それを生かした話し合いが、今後の課題である。また、1 学期は、話し合い活動を活発にするために各学級において次のような取り組みがされた。

- 1 年 わけをつけて話すようにし、よい発言の場合は、全員で復唱し、言い方に慣れるようにした。
- 2・3 年 友達の発言にはハンドサインを使い、友達の意見について話をつなげられるようにした。
- 4 年 自分の考えをノートに書いた後、全体で発表する前に隣の友達やグループで発表するなど変化をもたせた。
- 5 年 友達の意見を別の子どもがもう一度説明することで理解度を高めた。
- 6 年 友達の意見について、三人以上つなげて発表し、話し合いを深めるようにした。

さらに充実した話し合い活動が展開できるように、2 学期以降も工夫して取り組んでいく。

友達や他学年の子のノートの書き方を見て、参考にしてほしいと考え、西玄関に各学級のよいノートなどを掲示するコーナーを設けた。ノートに書く項目、見やすく分かりやすい工夫など教師の解説をつけることで子どもたちの参考になっている。また、1 学期末の保護者会では、廊下に子どもたちの自由勉強などのノートを展示した。保護者にもよいノートのイメージをつかんでもらえたようである。



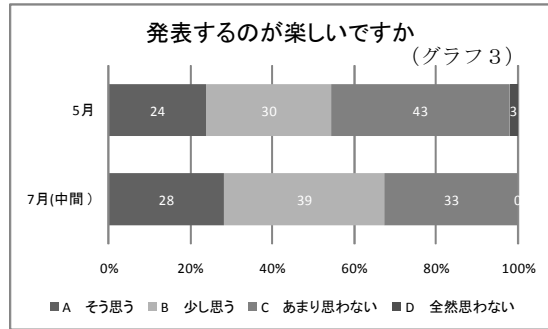
<西廊下の掲示コーナー>

しかし、ただ掲示しているだけでは、そのよさに気づかない子どももいた。そこで、2 学期以降は、子どもたち自身が友達のよさを実感できるように工夫をしていく。

(2) 方策2(暗唱)について

子どもアンケートによると「音読や暗唱に励み、伝統文化や言葉のリズムに親しんでいる」の項目で A,B 評価をした子どもは、83%に達している。また、子どもたちに「発表するのは楽しいですか」とアンケートしたところ、5月と比べ7月には、A,B 評価の割合が増えている。これは、7月に「本から学ぼうヨモヨモ集会」を行い、発表の場を設けたことが子どもたちの意欲や自信につながったためだと考える。

一方で、教員アンケート「伝統文化や言葉のリズムに親しむために、毎月一回程度、詩文などを暗唱する」では、A,B 評価が 50%と低くなっている。これは、暗唱の時間が各学級に任せられるために時間の確保が難しくなったためだろう。そこで、今後は、1週間に1回程度、共通して暗唱の時間を設けていく。

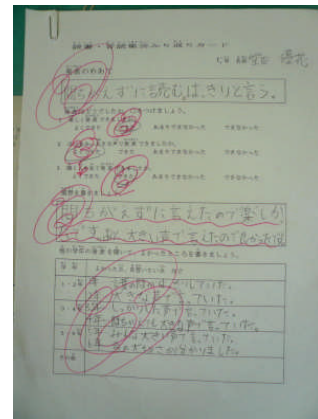


<ヨモヨモ集会>

(3) 方策3(場と評価)について

子どもアンケートによると「授業や集会などで自分の考えや感想を発表することができる」の項目で A,B 評価をした子どもは、83%であった。これは、授業の中でそのような場を設けたり、いろいろな集会でインタビューのコーナーがあったりしたことがよかったのではないかと考える。

7月の集会では、右の評価カードを用いた。子どもは、目当てをもって、集会に向けて練習し、その結果、伝えることの楽しさを感じたようであった。負担にならない程度に評価の方法を工夫しながら継続していきたい。



<振り返りカード>

2 学期へ向けての改善点

- ・低・中・高学年別に目標とすべき具体的な姿を明確にして、取り組みを進めていく。
- ・子どもたち自身がノートによさを相互評価をして実感できるように子どもたちがコメントを書くなど掲示を工夫する。
- ・毎月第2～4月曜日の朝活動には、音読・暗唱タイムを全校で設ける。

— 生徒指導 —

アクションプラン2

<b>重点課題</b>	あいさつの習慣化		
<b>現 状</b>	◇ 自分に自信をもつことや自己肯定感の低さ、表現力の弱さが少し気になる。そこで、温かい人間関係づくりに努め、自尊感情をはぐくんでいきたい。特に、あいさつを通して、相手を思いやる気持ち、自分を表現する力を育てたい。 ◇ あいさつについては、概ね目標を達成しているが、B評価の割合が高い。あいさつはしているが、「進んで元気よく」という面が弱いので、あいさつを積極的にすることができる子どもを育てるようにしたい。		
<b>目 標</b>	進んで元気よくあいさつをすると自己評価する子どもが80%以上いる。		
<b>方 策</b>		<b>評 価</b>	
		中 間	年度末
<b>1</b>	学期に2回あいさつ強化週間を設け、あいさつについて自己評価する。	B	
<b>2</b>	あいさつの意欲が高まるように、よいあいさつについて校内放送や掲示等を通して、紹介したり広めたりする。	C	
<b>公開の方法</b>	学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ		

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

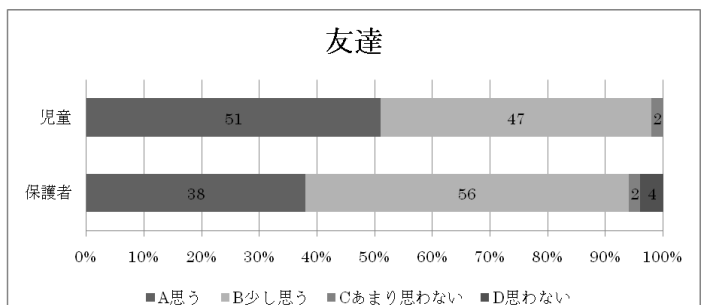
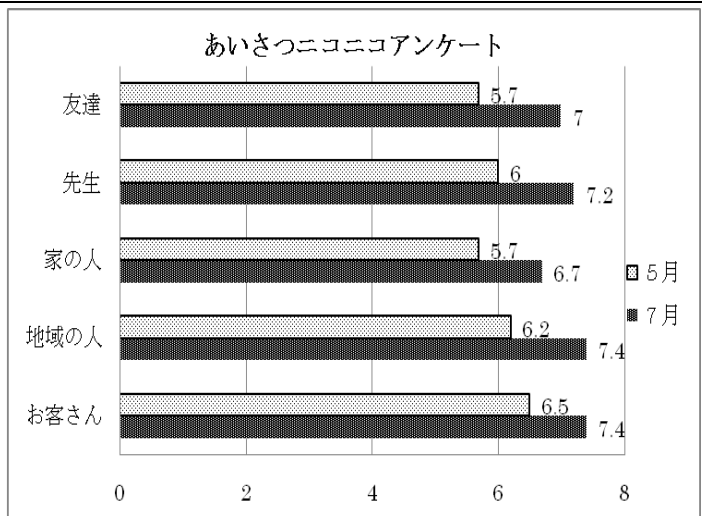
取 組 状 況

1 子どもの実態と考察

(1) 5月、7月に、子どもたちに、「今の自分のあいさつが10点満点で何点ほどか考えてみよう」と、アンケートを実施し、「友達、先生、家の人、地域の人、お客さんに元気よくあいさつをしているか」について自己評価を行った。『元気よく』というのは、「明るい表情」「大きな声」「たくさんの人」に「自分から先にあいさつをする」ということである。

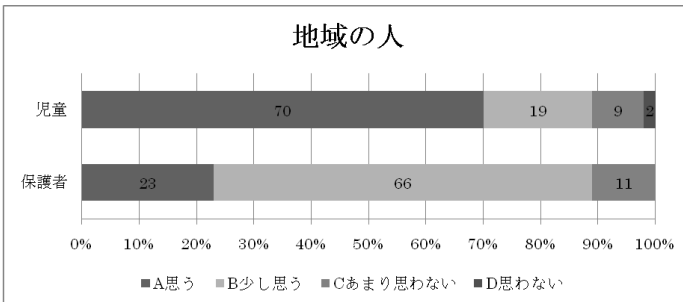
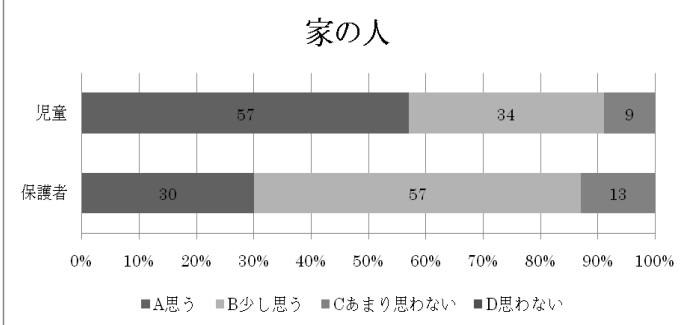
アンケートの結果をグラフに表すと、右上のようになった。どの項目も5月より7月の点数が高くなっている。全項目の平均は、5月が5.7点、6月が7.0点であった。これは、2回のあいさつ強化週間を設け、子どもたちのあいさつをしようという気持ちを高めたことにより、普段から進んであいさつをする子どもが増えたからだと考える。中でも、「友達に元気よくあいさつをしている」が一番伸びていた。これは、あいさつ強化週間中に生活委員会の子どもたちが玄関先や各教室を回ってあいさつをするように呼びかけたことが、よい結果につながったと考える。

(2) 7月末に「自分から元気よくあいさつをしているか」について子どもと保護者にアンケ



ートを実施した。「友達」「家の人」「地域の人」のどの項目についても、子ども、保護者ともA、B評価が80%を越えていて、目標値を達成している。しかし、子どものアンケートではA評価が50%を超えるのに対して、保護者のアンケートではB評価が高く、若干のずれが見られる。これは、保護者が子どもたちに、「今よりももっと大きな声であいさつをしてほしい」

「いつも進んであいさつをしてほしい」と、強く願っているからだと思われる。あいさつは、大切なコミュニケーションである。子どもたちが、今後も元気よくあいさつをするように、2学期以降も積極的にあいさつを呼びかけていく必要がある。



## 2 方策について

(1) 方策1（「あいさつ強化週間」と自己評価）について  
あいさつ強化週間を5月と6月の2回行った。目当では、「元気よくあいさつをしよう」である。1週間、「あいさつニコニコカード」で、◎よくできた、○できた、△もう少し、という形で自己評価した。結果は、右の表のように、◎の合計数が5月438個から6月521個とよくなった。

「あいさつニコニコカード」には、感想を記入する欄を設けた。「前回（5月）は、あいさつを返していなかったけれど、今回（6月）はできたのでよかったです。」という子どもの感想に、保護者が、「前回の自分の反省を生かして実行することができたことはすばらしかったです。」と応えている。親子でよさを感じている姿をみる事ができた。

このように、同じ活動を繰り返し行うことにより、子どもたちは改善点を自ら見つけ、あいさつへの意識を高めることができたといえる。

(2) 方策2（よいあいさつの啓発）について

西玄関横のあいさつコーナーに、「あいさつニコニコカード」を掲示し、あいさつの様子を知らせるようにした。あいさつ強化週間中は、生活委員が西玄関前でみんなにあいさつを行ったり、各教室へ回ってあいさつをしたりして、全校の子どもたちにあいさつの呼びかけを行った。給食時には校内放送で、生活委員からみんなのあ

### 「あいさつニコニコカード」5月、6月の比較

◎よくできた、○できた、△もう少し の総数

	◎	○	△
5月	438	353	150
6月	521	336	134

◎あいさつニコニコカード (めあて) ○元気よくあいさつをしよう。大きな声で、たくさん、目から先に(通して)あいさつする。

6月13日(月)から6月19日(日)までは、あいさつ週間です。

あいさつチェック表

項目	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
大きな声であいさつ	◎	○	○	○	○	○	○
たくさんあいさつ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
目から先に通してあいさつ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

感想: 前は、あいさつを返さなかったから、前回の反省を生かして、今回、元気よくあいさつを返すことができました。生活委員の呼びかけのおかげです。



あいさつ運動の様子

の様子やあいさつ推進についてのお知らせを行った。このように、子どもたちのあいさつの様子知らせたり、呼びかけを行うことにより、子どもたちのあいさつへの意欲を高めることができたといえる。

2学期に向けての改善点

- あいさつカードは有効である。さらに、「あいさつの木」や「あいさつに関する標語」の掲示などを行い、子どもたちのあいさつに関する意識をより高める。
- あいさつを通して「あたたかい人間関係づくり」を行うために、「おはようございます」「さようなら」の後に、相手に合わせてもう一言言葉を付け加える指導を行う。
- あいさつカードを見ると、あいさつの自己評価が低かったり苦手と感じたりしている子がいる。また、教師のアンケート評価では、A評価よりB評価の方が高い。あいさつも個人差があるので、励ましたり具体的言葉や態度を指導をしたりして、あいさつの活性化を図っていく。

— 健康・安全指導 —

アクションプラン3

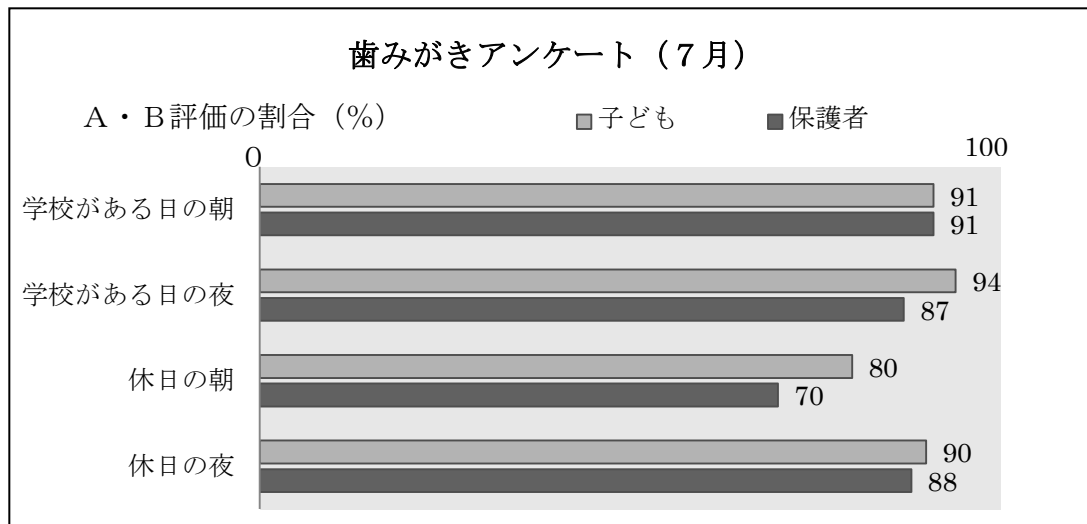
重点課題	健康な体づくり		
現 状	◇ 歯科検診やとやまゲンキッズのアンケートから、むし歯の子どもが増え、また給食後の歯みがきの様子を見ているにもかかわらず、歯みがきの意識が低いことが課題としてみえてきた。 ◇ 今年度は朝・晩の歯みがきにしっかり取り組むことでむし歯を減らし、自分の体づくりの基本となる歯を大切にしていこうという意識を高めていきたい。		
目 標	朝晩の歯みがきを忘れずにする子どもが80%以上いる。		
	方 策	評 価	
		中 間	年度末
1	歯みがきに対する意識調査を行い、忘れずに歯みがきができるように毎月第1月曜日の「ハッピータイム」(朝活動)で指導を行う。	B	
2	学期に2回「歯みがき週間」を設け、チェック表をもとに、朝晩の歯みがきを自己評価する。	A	
公開の方法	学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ		

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

取 組 状 況

1 目標について

朝晩の歯みがきをしているか、7月に子どもと保護者にアンケートをとった結果は次のようであった。

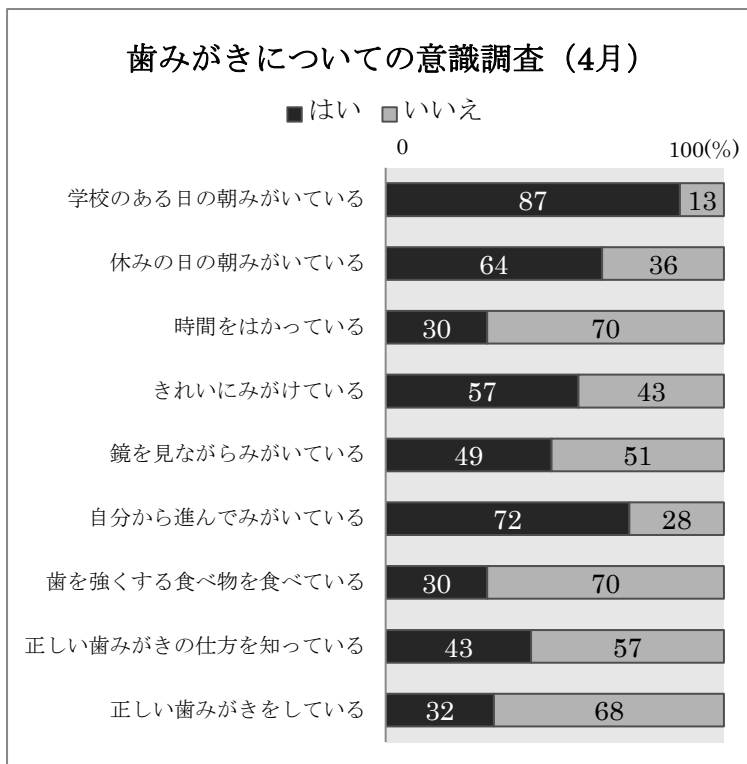


子どもの自己評価では、「朝晩の歯みがきをしている」のA・B評価は学校のある日も7休日も目標の80%を達成している。教師アンケートでも、「子どもは朝晩の歯みがきを忘れずにしている」のA・B評価は88%と高かった。

しかし、保護者アンケートの結果を見ると、「休日の朝、歯みがきをしている」のA・B評価は70%と低かった。今後、休日の朝の歯みがきが確実にに行われているかを見直したり、保護者との連携の回り方を工夫したりする必要がある。

2 方策について

(1) 方策1 (意識調査と「ハハハタイム」) について



4月に歯みがきに対する子どもたちの意識調査を行った。この結果から、学校のある日の朝(87%)に比べ、休日の朝(64%)の歯みがきの実践率が低いことが分かった。また、「時間をはかって」みがいている(30%)、自分の歯を「きれいにみがけている」(57%)、「正しい歯みがきの仕方を知っている」(43%)という結果からも、歯みがきの大切さを指導していく必要があると考え、「ハハハタイム」で指導することにした。

① 「ハハハタイム」 (5月9日)

アンケート結果を、子どもに分かるように図や絵を用いて提示した。このことにより、すべての歯をきれいにみがいていないことや正しいみがき方を知らないことに子どもたちの意識を向けることができた。そして、正しいみがき方をしないと、みがき残しができ、むし歯



「ハハハタイム」での指導の様子

になりやすいこと、また、今の時期の歯はとてもやわらかいため、むし歯になりやすいことを指導し、「はみがきチェックカード」の実践につなげた。

② 「ハハハタイム」 (6月6日)

5月の「ハハハタイム」での指導に引き続き、正しいみがき方を歯やブラシの模型を用いて具体的に指導した。歯ブラシの持ち方や歯の形に合ったみがき方を説明するとともに、きれいにみがくには、約3分間を目安にするとよいことを助言した。その際、「歯科医ダーマンの歯みがきソング」を紹介した。この音楽には、右上、真ん中上、左上、右下、真ん中下、左下と、みがく場所を指示する言葉が出てくるので、子どもたちの関心を高めた。この音楽を毎日の給食後に流したことにより、子どもたちは音楽に合わせて楽しみながら3分間の歯みがきを実践することができた。「ああ、すっきりした。」ときれいにみがけたことに気持ちよさを感じている子どもの声も聞かれるようになった。また、音楽に間に合わなかった子どもも時間を意識することができるよう、手洗い場に3分間の砂時計を設置した。砂時計を手にし、鏡を見ながら歯をみがく子どもも増えてきた。



歯みがきをする子ども

(2) 方策2 (「歯みがき週間」と自己評価) について

5月と6月の「ハハハタイム」の後、それぞれ1週間ずつ「歯みがき週間」を設け、カードに記録をして自

己評価を行った。教師からも称賛や励ましの言葉を書き添え、実践を継続するよう働きかけるようにした。

5月のカードの自己評価から「平日は朝も昼も夜も歯をみがいていたけれど、休日の朝はみがいていなかったから、これからは休日の朝もみがこうと思います。」という、自分の課題を見つけた子どもも見られた。

6月のカードには、「時間をはかかって歯をみがきましょう。」という目当てを示したので、時間を意識しながらみがく子どもが増えてきた。

一回も忘れずにみがくことができた子どもには、ミニ賞状を渡したり保健コーナーに名前を掲示したりして称揚した。

一方、2回の歯みがき週間の結果、歯みがきの実施状況には個人差があることが分かってきた。ある学年では、7日間の歯みがき週間中、21回全てできた子どもは60%だったが、14回しかみがけなかった子どもや、9回しかみがけなかった子どもも見られた。また、むし歯の治療が済んでいない子どももいることから、個別指導の必要があると考え、夏休みが始まる前に計画的に指導を行った。

さらに、家庭との連携を図るため、夏休みの「歯みがきカード」とともに1回分の染め出し剤を添付し、保護者と一緒に歯みがきの仕方を確認することができるようにした。このことにより、家族ぐるみで大事な歯を守ろうとする意識が高まることを期待している。



### 2学期に向けての改善点

- ・ 10月にアンケートを行い、4月と比べてよくなった点や今後の努力目標を明らかにし、「ハッピータイム」での指導に生かす。
- ・ 9月と11月にも歯みがき週間を設け、継続して実践するよう呼びかける。その際、保健委員の活動を工夫させ、全校で意欲を高めるようにする。
- ・ 保護者との連携を図るため、学校保健委員会で学校歯科医による指導の場を設ける。
- ・ 歯みがきをがんばっている子どもやむし歯のない子どもを全体の場で紹介する機会を設け、意欲化を図る。